

# Cente Technical Information

発行番号	001-0038	Rev	第1版	発行日	2010/04/02
題名	ショートファイル名のチルダ(~)後の番号の上限チェックが行なわれない問題について				
情報分類	技術情報				
適用製品	Cente FileSystem Ver4.00~Ver5.70				
影響API	fopen, fopen_hash, mkdir, rename, move, ct_divide				
関連資料	なし				

## 【詳細】

ロングファイル名作成時のショートファイル名に付けられるチルダ後の番号の上限チェックを行なっていないため、FAT12/16のルートの場合は~999999まで作成した後、同じ拡張子のロングファイル名を作成すると、全てショートファイル名に~999999を付けてしまう(重複してしまう)。またFAT32のルート及びFAT12/16/32のサブディレクトリの場合には~9999999まで作成した後、同じ拡張子のロングファイル名を作成すると、チルダ後の番号の上限を超えてしまいバッファオーバーフローが生じる。番号の上限を超えた場合にはエラーを返す必要がある。

## 【症状】

ショートファイル名が重複してしまった場合、ファイル/ディレクトリに対して正常にアクセスできなくなる。またバッファオーバーフローが生じた場合、システムが誤動作する可能性がある。

## 【回避方法】

### ■運用での回避方法

以下の何れかの条件を満たすことで、運用で回避することが可能です。

- ・ロングファイル名を使用しないようにする。
- ・FAT12/16のルートの場合、ショートファイル名の重なるファイル/ディレクトリを、同じディレクトリ内にチルダ後の番号が~999999を超えるような数作成しないようにする。
- ・FAT32のルート及びFAT12/16/32のサブディレクトリの場合、ショートファイル名の重なるファイル/ディレクトリを、同じディレクトリ内にチルダ後の番号が~9999999を超えるような数作成しないようにする。

### ■プログラム修正による回避方法

fs\_dir.cのfs\_find\_dir\_entry\_root\_sub()、fs\_find\_dir\_entry\_sub()に修正が必要です。

修正方法につきましては、弊社サポートまでお問い合わせ下さい。

以上